理科　（地学基礎）　学習指導案

日時	平成 30年 9月 28日（金）第 2 時限	指導者	
学級	5年2組	教室	視聴覚講義室
単元	固体地球とその変動	教科書	地学基礎改訂版(啓林館)

指導目標	1　地球の概観と、その内部構造について理解させる。 2　プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について、総合的に理解させる。 3　地震の発生や火山活動の仕組みについて理解させる。	指導計画	1　地球・・・・・・・・・・・5時間 2　活動する地球・・・・・・7時間 （本時はその6時間目）

本時の指導過程

主題	岩石薄片の観察
目標	1　火山岩と深成岩の組織の違いを理解させる。 2　岩石の種類によって構成鉱物が異なることに気付かせ、火成岩の分類について考えさせる。
課題	火成岩の分類について復習しておく。

	学習活動	時間	指導上の留意点	評価規準・方法、観点等
導入	1　前時の学習内容を確認する。 2　本時の目標及び学習内容を確認する。	5分	・火成岩の分類について確認させる。 ・本時の学習内容を確認させる。	・電子黒板 ・ワークシート ・授業プリント ・自作の偏光顕微鏡 ・デジタル顕微鏡イメージャー ・岩石薄片（造岩鉱物・火成岩）
展開	1　偏光顕微鏡を用いた岩石の観察方法について理解する。 2　火山岩と深成岩の成因の違いを考える。 (1)　火山岩と深成岩の組織の違いを理解する。 (2)　岩石薄片を観察し、組織の違いから火山岩と深成岩に分類する。 3　火成岩の分類について考える。 (1)　グループに分かれ、造岩鉱物の顕微鏡観察を行い、特徴をまとめる。 (2)　別のグループに分かれ、岩石薄片を観察し、鉱物の観察結果を基に岩石の種類を決定する。 (3)　分類の結果とその理由をグループで話し合い、意見をまとめ、クラス全体で共有する。	10分 10分 20分	・偏光顕微鏡の使い方に関する基本事項を理解させる。 ・組織の違いがマグマの冷え方の違いによることに気付かせる。 ・学習内容を基に、観察を行わせる。 ・鉱物によって顕微鏡下での見え方が異なることに注目させる。 ・それぞれの薄片で構成鉱物が異なることに気付かせ、火成岩の分類について考えさせる。 ・自分の考えを説明したり、他の意見を聞いたりして考え方を深めさせる。	【評価規準】 ○火山岩と深成岩の組織の違いを理解し、正しく識別できている。 （知識・理解） 【評価方法】 ○行動観察及びワークシートの記述内容 【評価規準】 ○造岩鉱物を識別し、その結果から火成岩の分類ができている。 （思考・判断・表現） 【評価方法】 ○行動観察及びワークシートの記述内容
整理	本時のまとめを行う。	5分	・本時の学習内容を確認させる。	

備考	生徒数 30名 （男子 10名、女子 20名）